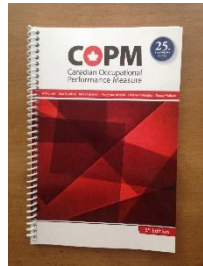


COPMニュース 第26号

(過去のニュースは<http://www.npota.com/>精神科作業療法の中にあります)

発行日：2014.6.1 発行者：吉川ひろみ
県立広島大学保健福祉学部 〒723-0053 三原市学園町1-1
TEL 0848-60-1236 FAX 0848-60-1134
E-mail yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp

久しぶりのCOPM ニュースです。
COPM第5版が届きました。COPMの最終案が完成したのが1989年だそうで、今年は25周年です。横浜のWFOTでは17日にワークショップが予定されていましたが、キャンセルになってしまい残念に思っていた方へ朗報です。東京工科大学12号館（JR蒲田駅徒歩5分）で、6月17日10時から14時に講演があります。講師はワークショップキャンセルを残念に思っているMary Ann McCollさんとNancy Pollockさんです。参加希望者は、abekk@stf.teu.ac.jpまで①氏名、②所属、③参加プログラム（同時に川モデルの講演もあるので区別するため、COPMと記載してください）を知らせてください。無料です。



COPM第5版は、色も形もずいぶん変わりました。翻訳についてはWFOT期間中にMary Lawさんたちとお話する予定です。COPMは、現在36言語に翻訳されていて40カ国以上で使われていると書かれています。使っている人も作業療法士だけではありません。

私も2011年に主に小児科医を対象とした研修会でCOPMとAMPSを紹介したことがあります。最近の小児リハビリテーション評価の本（診断と治療社より刊行予定）にCOPMとGASについて原稿を書きました。今月の週刊医学界新聞に、COPMについての記事を書く予定です。

専門家による介入が成功したかどうかを

決めるのは、その介入を必要とした当事者であるという認識が広まってきているのを感じます。

COPMの歴史を振り返ると、COPMの軸となっている「クライアント中心」と「作業遂行」の概念が変化し、明確になってきているのを感じます。基本概念が変わるということを受け入れるためには、知識の知り方はいくつかの種類があるということを受け入れる必要があります。知識は権威のある人や場所から受け取るものだと信じて疑わない人は、どんどん改定されていく知識に戸惑ってしまいます。そして確実な知識を偉い先生から教えてもらおうと考えてしまうのです。そういう人に是非知ってほしいのは、別の知識もあるということです。それはみんなで作り上げていく知識です。「何が正しいかを知る」のではなく、「正しいかどうかを確かめ続ける」あるいは「より正しいことを求め続ける」ことです。こうした態度で、文献を読んだり、他人の話の聞いたり、COPMをしたり、作業療法を続けていくことができます。

先日相談に訪れた新人の作業療法士が言いました。「何か作業をしてもらわなければと思ってしまうんです。」・・・どうしてそう思うのでしょうか。COPMではクライアントのしたいこと、する必要のあること、することを期待されていることを聞くことになっているのに、いつのまにか作業療法士がクライアントにしてほしいことを探していたようです。医療専門職として何か特別な専門的なことをしなければならぬという意識に憑りつかれているのではないかと思います。

継続してクライアント中心であり続けるということは、協働 (collaboration) するという事です。それはクライアントにとっての作業を知るためには、クライアントの話から見つけなければならず、遂行を通して生み出される作業の意味と一緒に感じていくことになるからです。協働は難しいけれど、できるように努力する甲斐のあることです。自分勝手にわがままな私も、作業の可能化のために協働することを学び続けていこうと思います。

今月は、本が2冊完成する予定です。

「Look at What You can Do!」(三輪書店)と「COPM・AMPS実践ガイド」(医学書院)です。Look atは、葉山靖明さんの「だから作業療法が大好きです!」(三輪書店)の一部を英訳したものです。その人にとっての意味ある作業が、人や周囲をどんどん変えていく現象を世界に伝えたいと思っていたところ、同僚の英語教員のティム・ビュートウさんがすてきな英語にしてくれました。実践ガイドは、齋藤さわ子さんとの共編著で、14名の作業療法士が事例を書きました。スターティングガイドの時より少し協働できました。これからも、もっと上手に協働していきたいです。

2013年度はCOPMニュースを書きませんでした。プレイバックシアターという即興劇の研修に4回も行き、「しましま」という劇団を作り、2014年1月には初公演をしました。授業でも学生と一緒に演じています。定期的にお稽古もしています。新しい作業に巡り合えて嬉しいです。今まで使っていなかった機能を使っている感じで、心が豊かになったり、新鮮な気持ちになります。WFOTでは小森亜紀さんが発表します。

AMPS関連のこともいっぱいしました。2013年5月にソウルでの国際OTIPM

(Occupational Therapy Intervention Process Model) シンポジウムに参加した作業療法士たちとOTIPMの本 (Anne G Fisher著) の翻訳をしたり、今月秋葉原で開催する第2回国際OTIPMシンポジウムやWFOTでのワークショップ (19日8時半～10時) の準備をしたりしました。昨秋スクールAMPSの評価者になり、先週ESIの評価者になりました。協働について学び続けることができている気がします。AMPSインターナショナルは、Center for Innovative OT Solutions (CIOTS) に改名され、ソフトウェア (OTAP) が新しくなり、もうすぐ日本語で報告書が出力されます。

2013年11月には、COPM開発者の一人であるHelene Polatajkoさんを招いてCO-OP (Cognitive Orientation to daily Occupational Performance) 講習会をしました。自分で目標を決め (ゴール) , 自分で計画して (プラン) , やってみて (ドゥ) , 自分で評価すること (チェック) が身につけば、人生の問題をどこでもいつでも自分で解決していけそうだと思います。CO-OPの説明は、実践ガイドにも少し書きました。CO-OPの成果指標として、COPMも使います。

COPM第5版の変更点は次の通りです。

- ウェブサイトwww.thecopm.caができました。
- マニュアルの事例の動画がウェブサイトで見られます。
- 信頼性、妥当性などの情報が増えました。
- 用語の定義が追加されました。
- 作業遂行の問題とは、その人がしたい、する必要がある、することを期待されていることであり、できない、していない、やり方に満足していないことではないと記載されました。